

青梅市スポーツ推進計画
～スポーツを**楽**しむまち・おうめ～

【概要版】



青梅マラソンマスコット
「おうめくん」

青梅市スポーツ推進計画はどんな計画で、どんな特徴のある計画なんだろう。



【どんな計画？】

この計画は、「スポーツを楽しむまち・おうめ」という理念のもと、「青梅市総合長期計画（平成25年度～34年度）」を上位計画とし、その他の行政計画等におけるスポーツに関連する施策を踏まえるとともに、国のスポーツ基本法およびスポーツ基本計画、東京都スポーツ推進計画などとの整合を図りながら、青梅市のスポーツに関する施策を総合的に推進する計画です。

【この計画の特徴は？】

◆スポーツの位置づけを幅広く [基本的考え方]

スポーツの果たす役割の多様化を踏まえ、意識的に行うすべての身体活動をスポーツとして位置づけています。

◆「7つのスポーツ」を軸に施策を展開 [基本目標・基本施策]

具体的な行動指針となる7つのスポーツ（「する」、「みる」、「ささえる」、「できる」、「まなぶ」、「かたる」、「かせぐ」スポーツ）を切り口として、それぞれの基本施策や取組を展開します

◆「7つのスポーツ」と「ぷらっとフォーム」によるシステム化 [施策連動型のしくみ]

「7つのスポーツ」による基本目標・基本施策と青梅市の長期計画である「第6次青梅市総合長期計画における施策連動型のしくみ」を組み合わせ、「ひろがる」スポーツと位置づけ、市民、NPO、事業者等と連携した“オール青梅”による取組を提案できる、システムをつくっています。



具体的にどんな計画なのかを見てみよう！

計画の期間

この計画は、平成26年度（2014）から35年度（2023）までの10年間を基本とします。また、計画の進捗状況や社会情勢等の変化に応じて、概ね5年での中間見直しを行います。

計画の推進

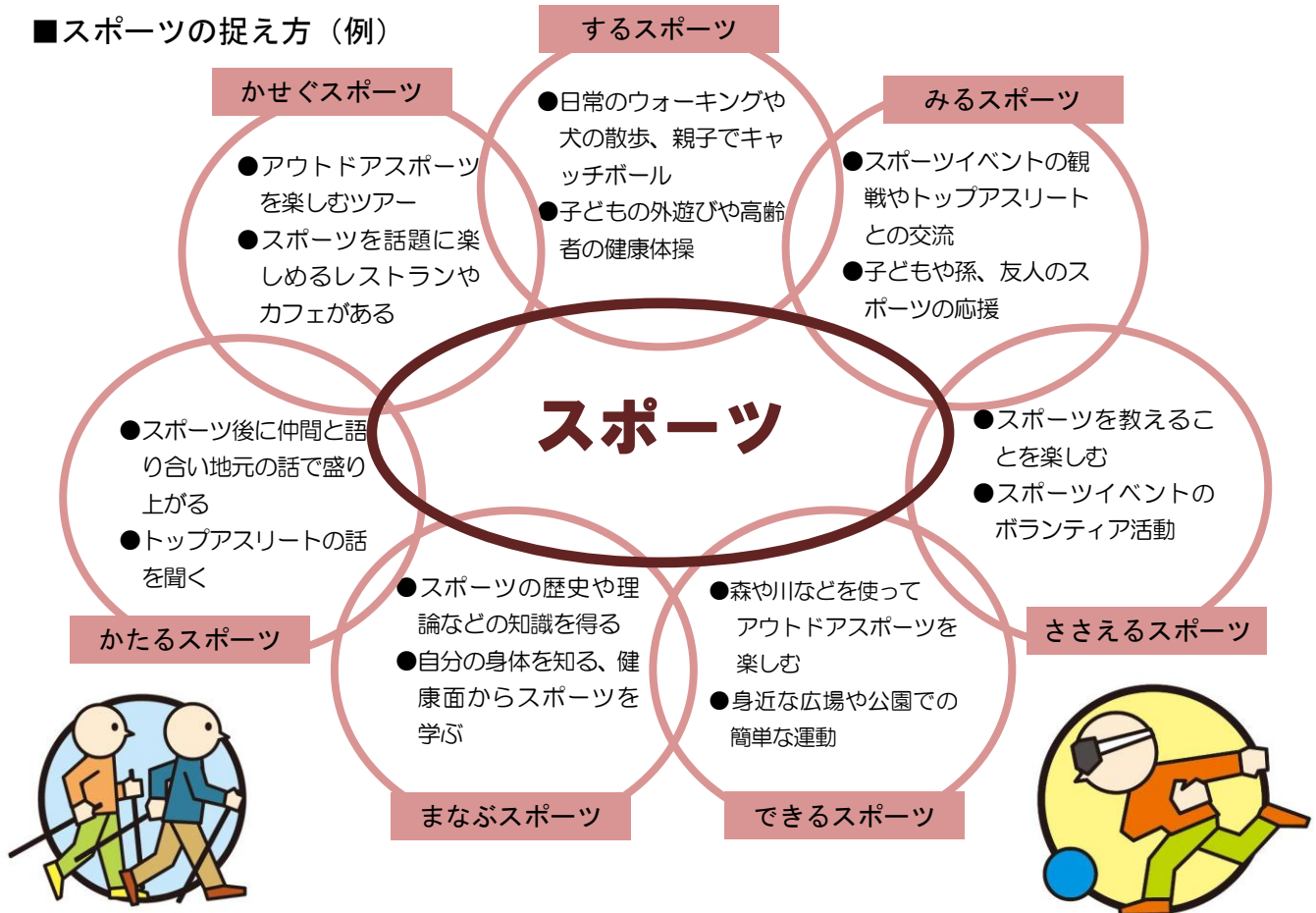
計画に基づく施策や取組の推進にあたっては、市民、NPO、企業、教育機関、行政等が連携・協働し、推進します。

また、計画の進捗状況や成果を点検・評価しながら効果的に推進します。

この計画におけるスポーツの位置づけ

この計画では、スポーツの果たす役割の多様化を踏まえ、スポーツをルールに基づいて競うスポーツに留まらず、健康づくりのための体操や気分転換に行う散歩、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニング、多様なニュースポーツやアダプテッドスポーツなど意識的に行う身体活動のすべてをスポーツとして位置づけます。

■スポーツの捉え方（例）



スポーツ推進計画における基本理念

スポーツを楽しむまち・おうめ

「スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができるまち」の実現に向けて2つの柱を基本に具体的な目標を設定します。

◆スポーツを通じたまちの活性化

◆スポーツ活動の機会や場所を提供することによる市民の健康維持・増進

計画推進のための基本目標・基本施策

スポーツ推進のための基本的なあり方（スポーツの位置づけや基本理念など）を踏まえ、計画推進のための基本目標と基本施策は、具体的な行動指針となる7つのスポーツ（「する」、「みる」、「ささえる」、「できる」、「まなぶ」、「かたる」、「かせぐ」スポーツ）によるアプローチから展開します。

1 青梅らしい多様なスポーツの充実 「する」スポーツ

市民が青梅の自然環境を生かしたスポーツ・レクリエーションを楽しむことができること、さらにライフステージごとや地域ごとによる多種多様なスポーツに関する取組を進めることで、市民の「する」スポーツの充実につなげます。

- (1) 自然環境を生かしたスポーツ・レクリエーションの充実
- (2) 子どものスポーツ活動の促進
- (3) 成人や子育て世代のスポーツ活動の促進
- (4) 高齢者のスポーツ活動の促進
- (5) 障がい者のスポーツ活動の促進
- (6) 地域でのスポーツ活動の促進

2 スポーツの魅力を伝えるスポーツの推進 「みる」スポーツ

「スポーツの魅力にあふれる青梅」として、大きなスポーツイベントの開催やトップアスリートとの交流を図るなかで、スポーツへの興味関心を喚起し、身近なスポーツ活動への波及効果を目指します。

- (1) スポーツイベントの開催
- (2) トップスポーツと触れ合う機会の創出
- (3) 身近なスポーツ活動への波及効果



3 次世代につながるスポーツの推進 「ささえる」スポーツ

青梅のスポーツを知る機会として、様々な情報提供や相談機能の充実を図るとともに、多様な団体と連携した取組を進めます。

- (1) スポーツに関する様々な情報提供および相談機能の充実
- (2) スポーツにおける多様な団体等との連携
- (3) スポーツ指導者やスポーツボランティアなどの育成・支援
- (4) 青梅市スポーツ振興基金を活用した支援・顕彰および基金への寄付

4 気軽に利用可能なスポーツの場の充実 「できる」スポーツ

青梅のスポーツができる「場」は、魅力ある自然環境をフィールドにすることをはじめ、民間等のスポーツ施設の活用、学校体育施設の開放、身近なスポーツ施設の活用を促進することも含めて市内全域に散りばめられているものと位置づけ、「場」の充実を図ります。

- (1) 市内全域をスポーツができる場とした活動の促進
- (2) 学校体育施設の活用
- (3) 身近なスポーツ施設の活用
- (4) スポーツ施設の効率的な管理と効果的な運営



5 からだのしくみと成り立ちを知るスポーツの推進 「まなぶ」スポーツ

人間の身体の仕組みを知ることやスポーツの正しい知識を得ることは、スポーツを楽しく安全に続けていくうえでも大切なことから、子どもの頃からスポーツを「まなぶ」機会を増やします。

- (1) 学校体育と連携したスポーツをまなぶ機会の創出
- (2) スポーツの成り立ちやスポーツのあり方をまなぶ機会の創出
- (3) スポーツと医をまなぶ機会の充実
- (4) スポーツ・トレーニングや身体のあり方をまなぶ機会の創出

6 心意気をみんなで共有するスポーツの推進 「かたる」スポーツ

市民一人ひとりがスポーツをするうえでのこだわりや想いを語り合い、交流するなかでスポーツの素晴らしさを共有できる機会をつくることを通じて、より一層、青梅のスポーツの魅力が花開くことを目指します。

- (1) 仲間どうして語り合える場の創出
- (2) アスリートが自分たちの想いを語る場の創出
- (3) 語り継ぐような青梅のスポーツレガシー（遺産）の発掘

7 青梅と人々を豊かにするスポーツの拡大 「かせぐ」スポーツ

行政およびスポーツ関係者が様々な事業者と連携を図ります。市のスポーツ関係の施策と相乗効果を図りながら、民間が主体となって取り組むことと連動し、スポーツの仕事や機会・場を生み出すまちを目指します。

- (1) 青梅という“地域特性”を生かした取組の創出
- (2) 地域とアスリートが連携した取組の創出
- (3) 民間企業と連携した取組の創出



「ひろがる」スポーツ in ぷらっとフォーム（施策連動型のしくみ）

「7つのスポーツ」による基本目標・基本施策と「第6次青梅市総合長期計画における施策連動型のしくみ」を組み合わせることで「ひろがる」スポーツと位置づけ、市民、NPO、事業者等と連携した“オール青梅”による取組を提案します。

施策連動型のしくみ（ぷらっとフォーム）は、「第6次青梅市総合長期計画（平成25年度～34年度）」に位置づけられた市全体の計画推進の仕組みであり、5つのテーマを柱として構成されるものです。

【7つのスポーツ】

- ・「する」スポーツ
- ・「みる」スポーツ
- ・「ささえる」スポーツ
- ・「できる」スポーツ
- ・「まなぶ」スポーツ
- ・「かたる」スポーツ
- ・「かせぐ」スポーツ

【ぷらっとフォーム】

- “安心して暮らせる青梅”のスポーツ
- “子育て世代が住みたい青梅”のスポーツ
- “生きる力がみなぎる青梅”のスポーツ
- “みんなが誇れる青梅”のスポーツ
- “何度も訪れたいくなる青梅”のスポーツ

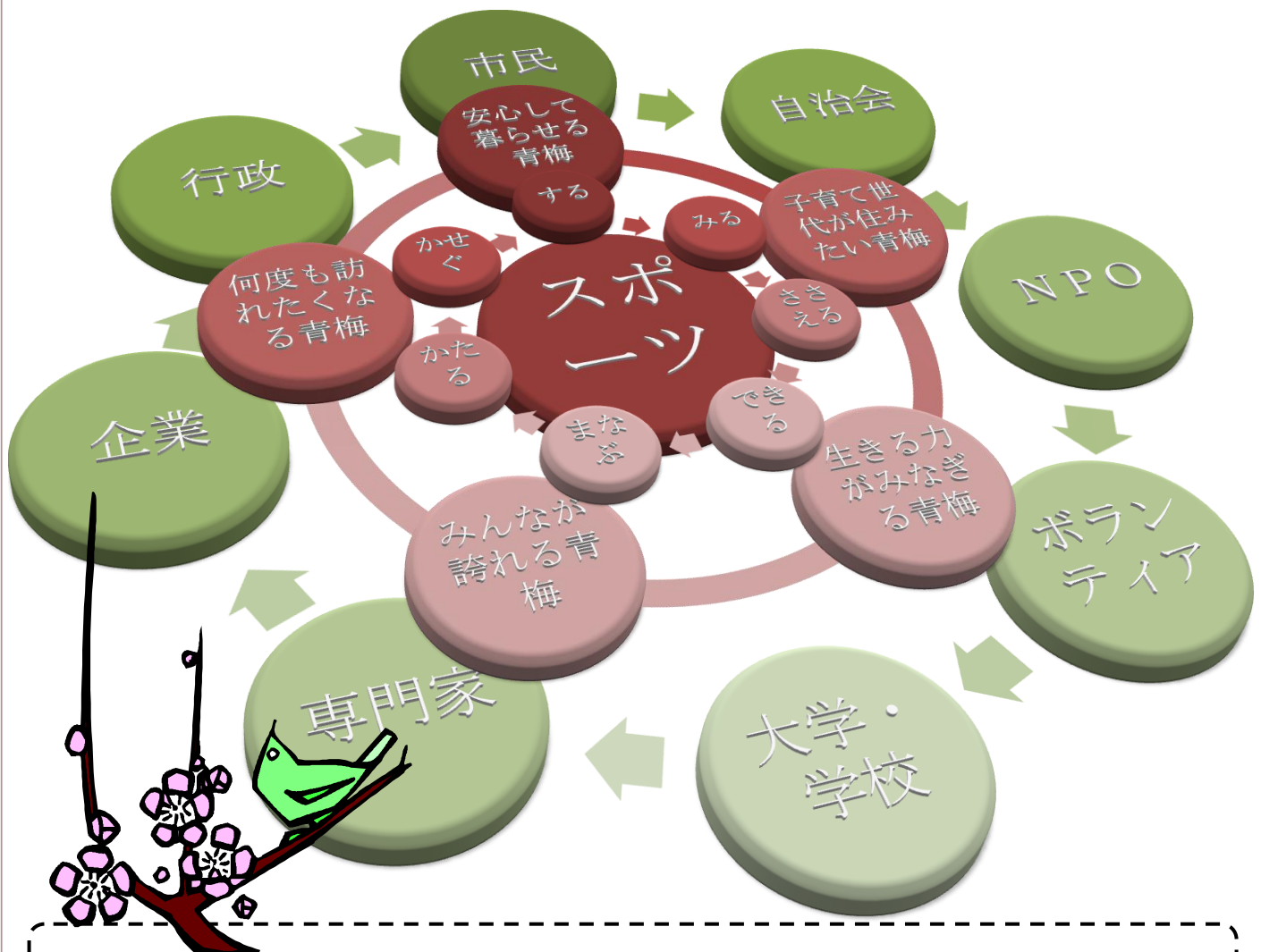
「ひろがる」スポーツ in ぷらっとフォーム（施策連動型のしくみ）

5つの主要テーマに基づき、7つのスポーツを自在に組み合わせていきます（下図参照）。

そこに様々な人々が関わることで“オール青梅”による持続的なスポーツ推進を図るためのアイデアが“梅の花”ように咲き誇っていきます。「ぷらっとフォーム」は、基本目標・基本施策との組み合わせにより、新しい具体的な施策展開を図っていくことのできる青梅市独自の仕組みです。

そこでは、あるときは市民の自主的な活動がスポーツに関連する分野と出会うことで、スポーツ以外の施策ともまざりあい、今までに見たこともないイノベーションが青梅の街角におこり、青梅から新たな価値と意味を生み出す物語が始まります。具体的なアイデアや行動が生まれる発想の源泉でもあり、それらのアイデアを実現するエンジンでもある施策連動型のしくみ（ぷらっとフォーム）を活用することで、基本目標・基本施策の実現に向けた“取組のあり方”を展開します。

■ 「ひろがる」スポーツ in ぷらっとフォーム ■



施策連動型のしくみ（ぷらっとフォーム）は、高度化・多様化するまちづくりの課題に対して、関連する分野や施策が横断的に関わり合い、有機的に連動し合うことによりイノベーションを起こし、新たな価値を生み出すことや相乗的に効果を発揮させることで、より良いまちづくりを進めていこうとするものです。（『第6次青梅市総合長期計画』より）



施策連動型のしくみ（ぶらっとフォーム）を使って、5つの主要テーマに基づき、7つのスポーツを自在に組み合わせると、どんな問いやアイデア（こんなことができるかも…）が考えられるだろう。

“安心して暮らせる青梅”のスポーツ

- Q 1 安心して暮らすためにスポーツはどんなふう役に立つの？
⇒地域の見守りにスポーツを生かした取組を進めることが期待できます。
- Q 2 災害時にスポーツは役に立つの？
⇒災害時に備えたスポーツ感覚による住民どうしの信頼関係づくりが期待できます。
- Q 3 食の安全にとってスポーツは何ができるの？
⇒食の大切さを知る機会をつくることが考えられます。



“子育て世代が住みたい青梅”のスポーツ

- Q 1 子育て中の親は忙しくてなかなか時間もないと思わない？
⇒親子や家族どうして一緒にスポーツをする機会をつくることが考えられます。
- Q 2 子育てが楽しくなるスポーツって何だろう？
⇒親子でスポーツを語り合える機会をつくることが考えられます。
- Q 3 子育ての前に出会いのない人たちはどうすればいいの？
⇒スポーツを通じた出会いの場をつくることが期待できます。



“生きる力がみなぎる青梅”のスポーツ

- Q 1 生きる力がみなぎる幸せな環境とはどんなイメージ？
⇒スポーツを通じた多様な交流機会をつくることが考えられます。
- Q 2 休息も含めた生活のリズムを大切にしたいと思わない？
⇒健康づくり（ポジティブヘルス）を大切にしたいスポーツの活用が期待できます。
- Q 3 健康は人それぞれで違うよね？
⇒多様な健康・スポーツのメニューを選べる仕組みをつくることが考えられます。



“みんなが誇れる青梅”のスポーツ

- Q 1 みんなが誇れるとはみんなが一等賞を目指すこと？
⇒スポーツを通じて子どもの頃から地元への愛着を醸成することが期待できます。
- Q 2 青梅の魅力とスポーツはどう結びつくの？
⇒スポーツを通じて地域固有の魅力を生かした取組の企画実施が考えられます。
- Q 3 スポーツを通じて本当の豊かさを味わえるの？
⇒自分らしい豊かさを発見してもらうためのきっかけを提供することが期待できます。



“何度も訪れたいくなる青梅”のスポーツ

- Q 1 訪れなくなったり、初めて訪れる時の印象が大事だよ？
⇒スポーツをきっかけに青梅の魅力を発信する仕組みをつくることが考えられます。
- Q 2 訪れた人はどこに泊まっているの？
⇒市民の協力による滞在（宿泊）場所の確保が期待できます。
- Q 3 訪れるだけでなく住んでほしいよね？
⇒スポーツを通じた働く場や住む場所をつくることが考えられます。





みどりと清流、歴史と文化、ふれあいと活力のまち 青梅

— ゆめ ・ うめ ・ おうめ —

発行年月 平成26年（2014）3月

発行 青梅市市民部体育課（次年度組織：市民部スポーツ推進課）